

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
2004 年 OB 通信 第一号

〒753-0841 山口市吉田 1677-1
山口大学体育会ワンダーフォーゲル部 OB 会事務局
URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tabidori/>
E-mail tabidori@yamaguchi-u.ac.jp

2004 年 7 月発行

目次

第1章	OB会の活動	2
1.1	福岡に集まろう！～改めて、総会開催地について～	2
1.2	福岡でお会いしましょう	4
1.3	総会案内 OB 総会～懇親会～十坊山登山 in 福岡	5
1.4	OB 会総会準備会に出席して	7
1.5	無題	7
1.6	近況報告および十坊山下見など	7
1.7	2003 年会計報告	8
1.8	OB 会費納入について	8
1.9	入会、脱会について	9
1.10	2003 年 OB 通信第二号名簿の修正について	9
第2章	現役部員近況報告 - 本部編 -	10
2.1	Y.U.W.V.OB 会贈呈装備のお礼	10
2.2	執行部近況報告	10
2.3	春合宿結果報告	11
2.4	第 40 回県内合同ワンデリング結果報告	16
2.5	夏合宿コース紹介	17
2.6	アフターコース紹介	17
2.7	1 年生合宿（山域～美ヶ原）	17
2.8	2004 年 第 41 回 中国・四国合同ワンデリング	18
第3章	現役部員近況報告 - 工学部編 -	19
3.1	執行部近況報告	19
3.2	夏合宿コース紹介	20
3.3	80km 耐久徒歩	20
第4章	その他	21
4.1	OB 会の名称と図案の募集	21
4.2	編集後記	21
4.3	連絡先	22

第1章

OB会の活動

1.1 福岡に集まろう！～改めて、総会開催地について～

OB会長 末國弘司

暑い季節となりました。OB 諸氏におかれましては暑さに負けず、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

OB 会が新組織で発足して2年半が経過しました。この間、会員相互の親睦と交流活発化を運営目標に掲げ、総会の開催に力を傾注した結果他の活動がおろそかになったきらいはありますが、発展途上の現状ではまあ仕方ないかなとも思っております。OB 諸氏のご感想はいかがでしょう。

ところで、総会の開催地については色々ご意見があり、毎年山口で開くべきとの根強い意向があることも承知しておりますが、反面山口では距離的な面からも、参加者が固定化し限定されてくるとのマイナス面もあります。過去、開催方法にも問題があったにせよ、総会出席者が毎回数人に留まっていたことは、その証左の一つでしょう。

しかし、地域的な理由で出席者の偏りが避けられないのならば、毎年開催地を変えてその周辺のOBが出やすいようにして、交流の機会を作ってはどうかというのが、開催地を移動させている理由です。会員間の交流は自然発生的に会員個々人の交流から始まり、次第に膨らんで地域支部へと発展していき、定期的な交流会が持てれば理想でしょう。OB 会全体の組織としては、総会をその交流の場と位置付け設定しているわけです。これらのことは総会の都度ご説明しておりますので、既にご理解頂いていることとは思いますが、重ねてのご理解とご協力をお願いする次第です。総会開催地として山口を中心に九州、関西、関東でローテーションが組めれば、というのが当面の目標です。この間に適宜広島なり、南九州なり、中部なりあるいは東北や北海道での開催が挟めれば、最高なのですが、全国どこに住んでいても、数年に1回は近くで総会が開かれるのが理想と考えています。

以上のような観点から、本年総会はぜひ福岡でとお願いし、永沼氏、秋山氏を中心に世話人会が発足して開催の運びとなった次第です。総会については別項でご案内いたしますが、多数のOB 諸氏のご参加をお待ちしております。また、まだ会員になられていない(会費未納の)OB にもぜひ、広く声をかけて頂くことを、併せてお願いいたします。福岡では、今回は総会に併せた支部発足はいたしません。九州も広く、OB 諸氏の動向と意向が把握し切れていないことも支部発足に至らない理由の一つですので、今回は特に九州在住のOB 諸氏にはぜひ出席頂いて、支部結成へ向けての建設的なご意見、ご協力を頂けるよう、期待しております。

OB 会を規則で縛った窮屈な組織にはしたくありません。あくまで自由な団体でありたいと願っていま

す。そのためにも、OB 個々人の自発的、積極的な行動を望んでいます。福岡でお目にかかる日を、楽しみにしております。

1.2 福岡でお会いしましょう

総会世話人 第5期卒 秋山 邦雄

今年の Y.U.W.V.OB 会総会の開催は福岡でお引き受けすることに致しました。OB 諸氏には心の故郷ともいえる山口に格別の思いを抱いておられることと存じます。私もその例に漏れません。その思いからすれば当然「古都山口」「懐かしの鳳翩」こそ久闊を叙するにふさわしい舞台といえましょう。それなのに「何故福岡か」。

思うに、会長、副会長をはじめ何かと OB 会の運営に時間を投げ折ってご腐心頂いている山口在住の諸氏に、毎年総会のお世話までお願いするのは誠にもって心苦しい限りです。その思いから、母校から離れてはおりますが、今年は福岡でお引き受けすることに致しました。

現役諸君と一体となって盛大に行われた昨年の山口での総会や、これまでの活動実績のうえに立って開催された一昨年の東京支部での総会に比べ、活動実績は甚だ乏しく、支部結成も未だ実現できていない福岡での開催には少なからぬ危惧もあります。しかし、Y.U.W.V. も 40 年余の歴史を重ね、OB 諸氏は全国各地で活躍されております。我が福岡をはじめ九州に在住されている OB も名簿の上ではかなりの数にのぼります。このたびの総会開催によって、九州の皆さんの気運が盛り上がり、支部結成へとつながる契機になれば、との期待も込めております。い、Y.U.W.V. (本部) 創立者のお一人で初代キャプテンの永沼氏が今回の総会には陣頭に立ってお世話いただいております。また、我が部が充実した時期に活動してきた本部 13 期前後の皆さんが中核となり、更に若い世代の OB も混じえてお世話することに致しております。年初以来、時には本部から会長、副会長にも出席いただいて、打合せや十坊山試登を重ねてきました。

まずは九州在の皆さん方には、この機会に、是非福岡での総会を一緒に盛り上げていただきたいと願っています。また、全国各地の皆さん方には、古くから大陸に開かれた歴史と文化を残す博多の街へお越し下さるようお誘い致します。食べ物も洗練され、安くて新鮮です。会翌日は、古代から我が国と朝鮮半島や中国大陆との文化交流、交易そして幾多の戦乱の舞台となった玄海灘を目の当たりにして、しばし歴史ドラマに思いを馳せていただければ、との思いで十坊山(とんぼやま)登山を計画しております。九州の西端近くですが、航空便に恵まれた福岡空港と JR、地下鉄で直結しています。東京在の皆さんも宵の口には楽に帰宅できます。どうか皆さん、気軽にご参加下さい。

では！ 10月10日には おもてなしの街、博多 でお会いしましょう。お待ちしております。

1.3 総会案内 OB 総会～懇親会～十坊山登山 in 福岡

・開催期日 平成16年10月10日(日) 11日(祝)

【総会・懇親会】

1. 期日 10月10日(日)16時～20時頃

2. 場所 西鉄グランドホテル(福岡市中央区大名2-6-60 092-771-7171)

交通

- ・JR博多駅から地下鉄で天神駅まで5分
- ・福岡空港から " 11分
- ・地下鉄天神駅から徒歩5分
- ・天神バスセンターから徒歩5分

3. 総会(16時～17時)

4. 懇親会(17時～20時)～「Y.U.W.V.40年」etc. 楽しい企画～

5. 会費 8,000円

宿泊(各自手配下さい)

*「山口大学 W.V.OB」であることをお申し出ください

- ・西鉄グランドホテル(1泊朝食付 11,000円税・サービス料込み)

092-781-0711

インターネット予約 <http://www.grand-h.jp/>

- ・西鉄イン天神(1泊5,000円税込み・インターネット割引料金)

(西鉄グランドホテルから徒歩10分)

092-713-5454

インターネット予約 <http://www.n-inn.jp/>

【十坊山登山】(希望者)

1. 期日 10月11日(祝)
2. 場所 十坊山(とんぼやま・標高535m)福岡県糸島郡二丈町背振山系の西端の山で、頂上の大岩から虹の松原や玄界灘の彼方に壱岐の島を望むことができる展望に恵まれた山。
下山後、「まむし温泉」にて汗を流します。
注 低いながらも急登の部分もあり、足ごしらえ、身支度はきちんと願います。
注 昼食は各自ご用意下さい。~天神のホテル周辺にコンビニ有り。
3. 集合 9時00分 JR筑肥線 福吉駅
4. 予定コース・地下鉄天神駅発(7時53分) JR福吉駅着(8時51分)
福吉駅 十坊山(昼食) まむし温泉 福吉駅(解散)
5. 帰り・JR福吉駅(14時59分) 地下鉄天神駅 15時59分
" 博多駅 16時05分
" 福岡空港 16時10分
・参考 天神~福吉間運賃830円(片道)
まむし温泉入湯料(タオル付き)900円(登山客割引)

雨天時

1. 場所 福岡市内(櫛田神社、キャナルシティ)
2. 集合 西鉄グランドホテルロビー 10時

九州総会世話人

- | | |
|-----------|-----------|
| 永沼嗣朗(2期) | 北原直子(13期) |
| 秋山邦雄(5期) | 山本玉枝(16期) |
| 本園明信(13期) | 桑江保子(17期) |
| 龍 純二(13期) | 天野雅紀(24期) |

1.4 OB会総会準備会に出席して

第13期卒 北原 直子

「OB 総会の準備をするんだけど・・・。」

と、本園さんから電話がありました。詳しくはファックスで連絡があり、「おいしいフランス料理を食べながら。」と記載。その一行で出席することにしました。

出席してビックリしたことは、退職された先輩達の元気の良さです！！みなさん生き生きとされているのを見て、将来自分もああでなくてはと思いました。準備会にもっと若手が入って欲しい事。そして、多くの人が参加するような準備会に。等々の話が出ました。

仕事に追われている毎日、仕事以外に身を置いてみたい気分になりませんか。ワングル現役時代に不真面目だった私でも参加しています。

1.5 無題

第13期卒 本園 明信

たいへんご無沙汰しております。皆様もお元気のことと思います。

振り返れば、大学卒業して今年でちょうど30年。あっという間の時のながれ、まさに「光陰矢の如し」です。昨年は山口での総会がありましたが、仕事の都合で欠席いたしました。申し訳ありません。今年は春の人事異動で職場が変わったばかりで、多少時間的な余裕がありますので、OB会総会にむけてのお世話をさせていただいております。

永沼さんや秋山さんを中心とする皆さんで時々集まって九州大会に向けての準備を楽しく進めています。OB会総会九州大会では福岡県と佐賀県の境にある535mの十坊山（十防山）登山を計画していますが、さる4月29日、永沼さん、秋山さん、龍君、岩本君、そして私をいれた五人で玄界灘から唐津湾までが一望できる十坊山に登ってみました。十坊山は私にとっては初めての山でしたが、絶好の天気にも恵まれて能古の島（井上陽水の歌のタイトルにも使われている島）も虹の松原も見渡すことができ、満足感の高い山の一つになりました。そして、そのあとは下山途中にある「まむし温泉」で汗を流し、当然のように冷たい生ビールで乾杯。久しぶりの山行は身体にはこたえましたが、それ以上に心には爽快感が残りました。

もし総会当日雨天ということになれば、十坊山山行は無理ですから、キャナルシティにあるラーメンスタジアムで全国のおいしいラーメンを堪能してもらおうか、というような話をしています。

秋の九州の 山と海 を楽しみに・・・・・・。スケジュールを空けておいて下さい。では皆様のますますのご健勝、ご活躍を祈念しております。

1.6 近況報告および十坊山下見など

第13期卒 龍 純二

私事、卒業後最初は東京のソフト会社に就職しました。その後、昭和55年から福岡に帰り、3度の転職後、現在は西鉄旅行の情報システム室に勤務して今年で16年になります。自宅は久留米市宮の陣で、偶然にも同期の本園君が家から5分ほどのところにいます。今年から、下の娘も大学生となり夫婦二人の生活がはじまっています。家内は犬が飼いたい、猫でも良いといっていますが・・・・。

今年の1月、秋山さんから「2月14日に集まりたい。」との電話があり、福岡開催のOB会総会の準備がはじまりました。昨年の10月に山口での総会に参加し、その際来年は福岡で開催することになり予期はしていましたが、ついにきたかという感じでした。これまで3回の会合と1回の下見山行に参加しました。長沼さん、秋山さんの両先輩、また、山口から遠路出向いてこられた末国会長、木山副会長からは、ワングル創部のころのことなど興味深い話がつきることなく時がたつのを忘れるほどでした。リタイア後の年金生活のアドバイスなどもあり、いまでは、会合でお会いできるのを大変楽しみにしています。

4月29日は十坊山（とんぼやま）の下見に参加しました。メンバーは長沼、秋山両先輩と本園、岩本、私の5人。とても良い天気で、新緑がまぶしく、ふもとのみかん畑をぬけていくのは爽やかで快適でした。頂上近くではかなり

きつい登りが30分位続きます。頂上には花崗岩の大岩があり、鎖を伝って登ることができます。この大岩からの眺めは素晴らしく、眼下に虹の松原や玄海灘がひろがります。初夏の海は、なんとも言えない位良い眺めでした。帰りには「まむし温泉」に入って汗を流しましたが、建物や設備も新しく、気持ちの良い温泉でした。この温泉からは、電車の時間に合わせてシャトルバスが運行されていて、大変楽チンでJR筑肥線福吉駅へ着きました。昨年のコースに比べるとややハードですが、きっと登ってよかったと思うでしょう。

それでは、今年の10月11日(体育の日)が晴れることを祈っています。

1.7 2003年会計報告

事務局

2003年会計報告は、2004年OB通信第一号に掲載すべきものでしたが、事務局の不幸により掲載していませんでした。この会計報告は2004年OB通信第二号に掲載します。申し訳ありません。

2003年内での収入、支出はつぎのようになっています。

収入		支出	
利子	23円	事務局用雑費	6,890円
2003年分OB会費	438,000円	OB通信第一号関連費	71,337円
OB総会での寄付金	68,000円	OB総会関連費	52,313円
		OB通信第二号関連費	76,718円
計	506,023円	計	207,258円

収入のOB総会での寄付金68,000円は、2004年に新入部員の装備代(シュラフ、アタックザック5個ずつ)にあてさせて頂きました。

2003年末でのOB会費総額は以下のようになっています。

OB会費総額	
2002年繰越	1,172,659
2003年内に振り込まれたOB会費	400,000
OB総会での寄付金	68,000円
利子	23円
支払	-207,258
合計	1,433,424

1.8 OB会費納入について

2004年分OB会費を納入されていない方はお手数ですが、郵便振込にて下記へ納入して下さいますようお願い申し上げます。

郵便局 01530-0-16050 山口大学ワンダーフォーゲル部

また、会費納入は1年分か5年分一括納入のどちらかで御支払い下さいますようお願い申し上げます。

- ・1年分会費 2,000円
- ・5年分一括納入 10,000円
- (夫婦会員は二人で3,000円) (夫婦会員は二人で15,000円)

会費を口座に振り込んでくださる際に、口座引き落としにされると当方に明細書は届くのですが、振り込まれた御名前が通知されず、当方で確認が取れません。払込用紙を使って振り込んでいただくと、その払込用紙のコピーが当

方に届きます。御手数ですが必ず振込用紙を使って会費を納入して下さいますようお願い申し上げます。

OB会費納入状況については、2004年からOB通信第二号のみにOB名簿を掲載することになりました。第一号発送の段階で2004年分が未払いの方には振込用紙を同封しております。なお、2003年分を未払いの方は、OB会を自然脱会となっております。

1.9 入会、脱会について

初めて入会される方、再度入会される方は会費振込を意思表示とさせて頂いておりますので、お手数ですが、前期の口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。会費未納の場合は、自然脱会となるますので、会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

1.10 2003年OB通信第二号名簿の修正について

前年末に発送いたしました2003年OB通信第二号に添付の名簿において、一部誤りがございました。正しくはつぎのようになっております。

本部 12 期, 石川忠, 会費振込み日 03/09/29, 金額 10,000 円, 会費有効年 2007 年

関係者の方々には大変ご迷惑をおかけいたしました。どうも申し訳ございません。今後はこのようなことのないよう、充分配慮したいと思っております。

第2章

現役部員近況報告 - 本部編 -

2.1 Y.U.W.V.OB 会贈呈装備のお礼

第44期執行部主将 井手口謙三(3年)

今年度、OB 会から援助して頂いたお金で部の装備品(シュラフ、アタックザック5個ずつ)を購入しました。これは新入部員の装備代を軽減する目的で、現在大切に使用して頂いております。有難うございました。

2.2 執行部近況報告

第44期執行部主将 井手口謙三(3年)

2.2.1 執行部紹介

今年度の新役員、係の紹介です。

主将、トレーナー・・・・・・・・井手口 謙三(経3)

副将、会計、装備、気象・・・・・・・・生田 将吾(経3)

主務、渉外、記録・図書、山行技術・・・松下 謙司(経3)

サブ装備、エッセン、サブトレーナー・・・上岡 敬巧(農2)

衛生、マッチェントレーナー・・・・・・・・那須 夏妃(経2)

今年も去年に引き続き3年生が3人と少ないため、2年生に係の仕事を任せています。

2.2.2 入部者

今年度の入部者はオッチェン5名、マッチェン2名の計7名です。今年は毎日茶話会を行うなどして、かなり勧誘を頑張ったつもりでしたが、目標獲得人数の8名に対し、わずかながら及ばず残念でした。

今年度の部員数はつぎの通りです。

部員数	1年生	2年生	3年生	4年生	計
オッチェン	5人	1人	3人	1人	10人
マッチェン	2人	1人	0人	1人	4人
計	7人	2人	3人	2人	14人

2.2.3 44期執行部スタート

今年1月から主将を務めさせていただいております、井手口謙三と申します。去年の植本先輩の代に引き続き、我々第44期執行部も今年の1月からのスタートとなりました。

1月から3月にかけての春合宿を含めた活動については、下級生が半年以上、共に活動してきた1年生（現在は2年生）であったため、1つ1つの行事をスムーズにこなすことができたのではないかと思います。

4月以降については部員数に関して、3月までの時点で1年生（現在の2年生）は工学部が多いため、4月から本学に残る2年生はわずか2人という状況でした。この状況は去年、1年生が入部してきた時から予想できていたものなので、前々から4・5月は新入生の勧誘を頑張ろうと執行部で考えていました。具体的には、ポスターを早めに作ったり、茶話会を毎日行ったりなどをしました。結果としては新入部員7名という当初の目標8名をわずかに下回ってしまいましたが、7人の新1年生のおかげで、これまで以上に部に活気が出てきたような気がします。

自分たち第44期執行部に関して、我々の目的の1つに「伝統ある山大ワンゲルを後生に伝える」というものがあります。山口大学ワンダーフォーゲル部という約半世紀も続いてきた伝統ある組織のなかで、執行部の交代とともに時代も変わってきました。特に現代は多種多様な価値観が混在し、また全てが目まぐるしく変化する革新的な時代であると思っております。そんな時代であるからこそ、山大ワンゲルの数々の”風習や伝統、そして精神”を残していきたいと考え、これを目標といたしました。

しかし、ここで前述したように考えたのは、あくまで自分たちがそれらを素晴らしいと感じたからであって、ただ単にそれらを後輩達に教えていくということではありません。そして、幸いにも自分が挙げることのできる”風習や伝統、そして精神”のなかにはありませんが、悪しき伝統がもし存在するならば、この代で切り捨てるべきだと考えています。また伝統を守りつつも、新しいことに挑戦していくつもりです。去年から解禁されたドライバー山行ですが、今年もFW等に限り解禁しております。そしてようやく先日、実現することができたのですが、ドライバー山行専用の緊急対策が無いことや、計画書の様式等にまだまだ不備な点が多く、今後の課題は山積みであります。

大変長い文章になってしまいましたが、我々執行部一同、1・2年生と力を合わせ、また4年生の先輩に助言を仰ぎ、山大ワンゲルの素晴らしい伝統の新たな1ページを刻むことができるように頑張っていこうと思います。

2.3 春合宿結果報告

2.3.1 生田 Party（山域：霧島山群、九重山群）

PL 生田将吾（3年）

この度、春合宿のPLを務めさせて頂きました、経済学部経済学科3年の生田です。

僕のPartyは3月15日から3月23日にかけて、霧島山群と九重山群にて春合宿を行いました。両山群のほとんどの山を登るといふ、山頂尽くしのコースで、景色とのふれあいにも充実したコースだったと思います。

それでは、ご報告させて頂きます。

AP(3 / 15)

たくさんの差し入れの方々に見送られて、僕たちは湯田温泉駅を出発しました。

乗り慣れた山口線の電車で揺られ、これから始まる我が部の大イベントの1つに胸躍らせます。アプローチは新幹線、高速バス、タクシーと順序良く乗り継ぎ、予定通り、えびの高原キャンプ村に到着。合宿のアプローチでは珍しいことに、席に座れないということがほとんどなく、p-menはテン場にいた鹿たちと元気に戯れていました。さて明日から山行開始。何が待ち受けるのか楽しみです。

1日目(3 / 16)

えびの高原キャンプ村	韓国岳	獅子戸岳	新燃岳	中岳	高千穂河原キャンプ場
5:00	7:35/7:55	11:57/12:11	13:03/13:20	13:50/14:05	15:25

計 11 本 7 時間 27 分

この日、僕たちを待ち受けていたのは、錬成並みの苦難の道のりでした。特に韓国岳からの下りは、聞きしに勝る荒廃度で、数歩歩くたびに滑って転び、数十歩歩くたびにミヤマキリシマの枝によって差し入れの入った袋は破かれ、僕たちはまさに、一本綱を渡るような慎重さを持って進んだのでした。そこに直射日光による暑さが相まって、高千穂河原に着く頃には皆ヘトヘトになっていました。歩きやすいようにと道に敷かれた石畳も、この時ばかりは足の疲れを増幅するものに過ぎず、憎らしく思えました。

それでも、この1日目の行程を行けたのは、晴天下の美しい景観が僕たちに元気を与えてくれたからだと思っています。

2 日目 (3 / 17)

高千穂河原キャンプ場	御鉢 (沈決定)	高千穂河原キャンプ場
6:00	7:20/7:35	8:31

計 3 本 1 時間 52 分

空は何となくどんよりとしていましたが雨の心配はまだ当分なさそうなので、僕たちは昨日に比べれば嘘のような軽荷を背負い、高千穂峰を目指しました。

しかし、行く手を阻むものが、濃霧と強風です。時間が経つにつれ視界は悪くなり、風は吹き荒れる一方。余儀なく沈決定となりました。明日も天的に望み薄ということで、明日のうちに九重のほうへ移動することに決めたのでした。

3 日目 (3 / 18)

高千穂河原キャンプ場	九重へ移動	くじゅうやまなみキャンプ村
5:46		15:50

計 1 本 0 時間 20 分

小雨の降る中、九重に向けて出発しました。2回目のアプローチとも言うべき長い距離を電車やバスに揺られ、こっくりこっくりしながら過ごしました。

下級生は元気でずっとトランプなどをして盛り上がっていたようでした。九重の高原の中に入ると一面山に囲まれ、僕たちは合宿第二の舞台に覇気の高揚を感じたのでした。

4 日目 (3 / 19)

くじゅうやまなみキャンプ村	雨ガ池	法華院温泉山荘	平治岳	法華院温泉山荘
5:00	7:05/7:22	8:17/9:12	11:00/12:05	13:32

計 7 本 5 時間 36 分

朝起きてテントを撤収しようとした時のこと、テントは凍てついていました。ロープがカチカチに固まってしまうなど初めての経験。何とかきれいに纏めることに成功して、ほっと一息ついてしまいました。

朝のうちは気温も低く、ガスも立籠めるなど、散々な道中でしたが、法華院山荘に着く頃には心地よい風の通る、真っ青な快晴の空が広がってくれました。平治岳からの景色、視界に広がる空間的な雄大さと火山活動の営みが持つ時間的な力は、みんなの心に響き、焼きついたことでしょう。

5 日目 (3 / 20)

法華院温泉山荘	白口岳	稲星山	久住山	天狗ガ城
4:30	6:25/6:44	7:08/7:25	7:51/8:05	8:28/8:44
中岳	御池	星生山	法華院温泉山荘	坊ガツルキャンプ場
8:56/9:17	9:31/9:47	10:50/11:05	12:45/13:55	14:10

計 13 本 5 時間 41 分

この日は何個名のある山に登ったことでしょうか。久住山、星生山などそれぞれの山で微妙に景観が違い、九重山群のほぼ全貌を眺めることに成功しました。

中でも僕たちが感銘を受けたのは、硫黄山から吹き上がる噴煙でありました。この時見た限りでも、相当の勢いがあったので、過去の規制が敷かれている時にはいったいどんな吹き上がり方であったのだろうか、自然のエネルギーの莫大さに、ただただ感心するばかりでした。心残りなのは、曇っていたことだけです。残念。

6日目(3 / 21)

坊ガツルキャンプ場	三俣山	南峰	坊ガツルキャンプ場
5:30	7:30/7:52	8:02/8:33	10:22

計8本 2時間46分

スガモリ小屋の様相は、まるで遺跡でした。石造りのボディと荒廃した壁、思わずシャッターを切ったのでした。そこから三俣山へ。くねくねした道は景色がよく、登るにつれて九重の山々が顔を出してきます。山頂でも当然のごとく景色は良好でありました。

十分楽しんでテン場に帰ると、なんとそこは真っ黒な平原と化しているではありませんか。山焼きがあったそうなのです。春の風物詩を見逃してしまいました。秋吉台で間近で山焼きを見ていた僕たちにとっては諦めのつくものでした。

7日目(3 / 22)

沈決定(5:15)

雨が降ってしまいました。おまけにガスもひどい。最終日前日に沈という、なんとも複雑な心境に置かれた僕らでした。

8日目(3 / 23)

坊ガツルキャンプ場	北大船山	大船山	鳥居窪	柳ガ水	七里田温泉
5:18	7:24/7:35	8:06/8:31	9:24/9:55	10:27/11:12	13:05

計8本 5:17

さて、ついに合宿最終日がやってきてしまいました。名残惜しさと下山したさの葛藤は毎度のことです。そんな最後の日に、九重は幻想的な光景を僕たちに見せてくれたのです。白く染まる大船山。その正体は霧氷なのでした。ミヤマキリシマにへばり付いた氷が日の光に輝いている。自然の作り出す芸術は、すべてを圧倒してしまうような美しさでした。この白銀の山で全員ストームをしました。思い思いの言葉は合宿の締めくくりとして相応しいもので、九重に染み込んでいきました。

七里田温泉に到着し合宿は終了と相成りました。

総コースタイム 7泊8日 計51本 28:44

今回の合宿では、さまざまな場面で、自分の至らなさを痛感しました。反省点は多々あります。後悔していることも然り。反省も後悔も、これらは誰にでもできます。

反省からは今後活かせるものを見つけ、後悔を引きずらないようにして、一歩前の自分を目指していくことが大切なのだと思います。後輩たちがPLとなる時、その力になれるようになっていきたいというのが、今後1つの目標になるかと思います。

今回はp-men わずか5人と少人数での山行となりましたが、それぞれが自分の仕事を積極的にこなし、なおかつ協調性を大事してくれたおかげで、当時2年生でPLだった僕には、それがとても心強く思えました。そして、先輩方のご協力がなおいっそうの励みになりました。

最後に、今回の春合宿関連すべてにあたって、ご指導下さった先輩方、差し入れに来て下さった方々、本当に有り難う御座いました。心よりお礼申し上げます。

2.3.2 松下 Party (山域：西表島)

PL 松下譲司 (3年)

2004年度の春合宿で僕らの Party は西表島に行きました。前半はジャングルを歩き、後半は海岸沿いにリーフを歩くという行程です。

西表島に行くにあたって、不安な要素はたくさんありました。コースの状況、強度、増水の程度、潮の満ち引きなど、苦労は多かったのですが、その分だけ楽しんだ合宿でした。

AP (3/12~13)

電車、地下鉄に乗り福岡空港に。ここで荷物検査があり、ザックの中身を出しました。せっかくパッキングしたのにやり直しです。さらに発煙筒をとられてしまいました。

何とか飛行機に乗り込み那覇空港に。夏のように暑かったです。途中発煙筒を購入して、那覇新港でフェリーに乗りました。翌日の朝に石垣島に着き、小さいフェリーに乗って、ようやく西表島の大原に到着。ここからは歩いてヤエヤマヤシ展望台に行きました。ここは工事中で、少し過ぎた辺りにテントを張りました。問題がたくさん起きて P-men には迷惑をかけました。

1日目 (3/14)

ヤエヤマヤシ展望台過ぎ	分水嶺手前	第1山小屋跡
5:00	5:40/5:55	9:43

計6本、3時間18分

ハブ対策のスパッツをはき、林道を少し歩くと登山口の看板が。いよいよジャングルへ。肩幅ぐらいの道で、まわりはササやシダ、木からはツルなどがたれさがっています。途中、早速道に迷ってしまいました。西表島は日の出が遅く、暗闇で道がわかりにくかったです。道が見つかり、何度もアップダウンを繰り返しながら進んでいきました。斜面を歩くところが多く、滑りやすく切り立っていて、神経を使いながら歩きました。

しばらくして最初の渡渉点。皆順調に渡っていたのですが、僕は滑って落ちてしまいました。ザックのおかげで助かったのですが、集中力が切れていたと反省しています。次の渡渉点では SL が滑りました。本当に危険がいっぱいでした。そして第1山小屋跡に到着。

2日目 (3/15)

第1山小屋跡	イタジキ川出合	マヤグスクの滝	イタジキ川出合	第2山小屋跡
6:00	10:35/11:50	12:12/13:02	14:06/14:26	14:50

計8本、5時間31分

いきなり川を渡渉します。流れが速い上、石が滑りやすいので皆あせっていました。途中見たくはなかった生物に……。セカンドの足元にはサキシマハブが……。皆凍りつきました。ハブは穴に入っていく助かりました。道は斜面を歩く所が多く、道幅は狭くて滑りやすいので危険でした。何度かこけかけたり、滑ったりしながら進みました。

イタジキ川出合手前には3mぐらいのほぼ垂直の崖が……。三点支持を使い、何とか皆降りました。ここで渡渉して向こう岸に行くのですが、流れが速く、石がとても滑り、ロープをつかみながら慎重に川をじゃぶじゃぶ歩いて渡りました。もう怖いものは何もありません。ここからマヤグスクの滝をピストンします。最初は道が不明瞭だったのですが、テープを見つけ迷わず行くことができました。そしてマヤグスクの滝に到着……。圧巻でした。とにかく大きくて迫力があり、美しかったです。皆感動したのではないのでしょうか。

イタジキ川出合まで戻り、溪流沿いに歩いて第2山小屋跡に。ここらはヒルが多いらしいのですが、本当にたくさんいました。皆ヒルと闘っていました。

3日目(3/16)

第2山小屋跡	カンピレーの滝	マリウドの滝展望台	マリウドの滝	マリウドの滝展望台
6:00	8:10/8:30	8:53/9:06	9:16/9:41	9:53/11:00
軍艦岩	浦内橋	子午線モニュメント	白浜	砂山小屋跡
11:25/12:00	12:17/12:45	13:25/13:42	14:38/16:30	16:53

計9本 4時間 24分

ときどき浦内川が見え隠れして、深く淀んでいました。ジャングルをぬけると岩床帯です。ぼこぼこしていてポットホールがたくさんありました。カンピレーの滝は落差がほとんど無いのに凄みがあります。しばらくはしゃぎ、今度はマリウドの滝へ。滝の上なので見ることはできないのですが、意外と大きくて、迫力がありました。

展望台から見るマリウドの滝は原生林をバックに太陽の光でピカピカ輝いてとても美しかったです。ここから舗装された道を歩き軍艦岩に。サバニとよばれる遊覧船に乗り込み、浦内橋に到着。久しぶりの文明です。そして白浜へ。ずっとロードを歩くのですが、とても暑く、錬成並みのきつさでした。ちょうど満潮時だったのでチャーター船に乗り、一気にウダラ川河口まで行きました。

4日目(3/17)

砂山小屋跡	登山道入口	鹿川
9:30	10:08/10:24	12:00

計3本 1時間 57分

まずウダラ川を渡渉します。この渡渉点は半端ではなく、腰までつかりました。さらに足が泥でぬけなくなったりしました。

途中でマングローブ林の中を歩き、登山口にたどり着きました。ここから再びジャングルの中を歩きます。進んでいくとザァザァという波の音が。急な下り道をどんどん進むと波の音が大きくなっていき、ジャングルを抜けました。ついに鹿川に到着。海は美しくエメラルドグリーンというやつでした。開放感からか、大はしゃぎでした。

5日目(3/18)

沈決定(9:00)

小雨が降り続き、沈決定。本当に暇な一日でした。本を読んだり、トランプをしたり、砂浜で砂遊びをしたりまったりと過ごしました。

6日目(3/19)

鹿川	クイラ渡り入口	クイラ浜
10:00	12:38/13:27	14:27

計4本 3時間 04分

砂浜に足をとられながら鹿川を出発して、まず岩場を歩きました。相当滑りました。しばらくすると潮が引いてきたのでリーフを歩くことに。ジャブジャブ渡っていきます。ひざまでつかれるのですが、岩場より安全です。熱帯魚やヒトデがたくさんいました。

クイラ渡りはすごいブッシュと聞いていたのですが、テープがかなりはってあり、道もわかりやすかったです。クイラ浜に到着してホッとしていたのもつかの間でした。この浜には水場がなく、節水して明日の行程に備えました。今回の合宿で一番の反省点です。

7日目(3/20)

クイラ浜	大浜	別れ浜
11:00	12:23/13:13	14:12

計3本2時間05分

クイラ浜を脱出して岩場を歩き、しばらくしてリーフを歩きました。ナマコやカニやウツボ？を見ました。いろいろな生物をゆっくり見ながら大浜に到着。この浜には待望の水場が……。管から出ており、人の手加えられていました。

再びリーフを歩いて、あっという間に別れ浜に到着。いろいろあったけど明日は最終日。明日に備え皆眠りにつきました。

8日目(3/21)

別れ浜	南風見田の浜	大原
11:30	13:46/14:03	15:44

計4本2時間56分

いよいよ合宿最終日です。軽快にリーフを歩いていると、どんどん沖から離れてしまい、リーフがとぎれとぎれに。とにかく陸に戻ることに。腰辺りまでつかりながら進んでいくと……。またしても見たくはない生物と遭遇しました。おそらくエラブウミヘビだと思います。逃げていったので助かりました。

南風見田の浜に着き、あとはロードを歩いて大原に。途中でヤシガニ、カンムリワシ？を見ました。最後の最後まで楽しませてくれました。下山ビールはオリオンビールで、その後、日本最南端の西表島温泉に行きました。最高に気持ちよかったです。

総コースタイム7泊8日37本23時間15分

今回の合宿では全工程行くことができ、とてもよかったなと思います。西表島というめったに行くことはできない島で、たくさんの体験をすることができました。P-menの思い出の中にも印象に残っているのではないかと思います。同時にPLとして反省点もかなり多かったと思います。事前の段階でもっと調べることができたはずですが、終わってからでは遅いのですが、今後西表島を計画したいという人がいれば参考にしてほしいと思います。

最後に先輩方には差し入れに来て下さったり、計画を立てるにあたってのアドバイスをいただいたりと、本当にお世話になりました。大変感謝しています。

2.4 第40回県内合同ワンデリング結果報告

実行委員長 生田将吾(3年)

この度、県合の実行委員長を勤めさせていただきました、経済学部経済学科3年生田将吾です。代々続いてきた県合も、今年で40回を迎え、そのような年に開催できたことをたいへん嬉しく思っています。

今年の県合のテーマは『山親酔楽』という造語でありました。おおいに山に親しみ、酔いを楽しんでもらおうと、考えたテーマです。このテーマに沿って、実行委員全員尽力できたと思っております。

今回は5/1~5/3の2泊3日で、東鳳山麓にある、一の坂ダムグラウンドで行いました。1日目は夕方集合して飲み、2日目は東鳳山をピストンし運動会、キャンプファイヤー(雨天のため中止)などを経て飲み、最終日は後片付け、プレゼント交換などして解散というスケジュールでした。

飲みは参加者の皆さん、差し入れに来てくださった皆さんがとても盛り上がり下さり、実行委員としても皆さんの楽しそうな顔を見られたのは、嬉しい限りでした(自分たちは飲めないのが苦しいところですが……)。他の大学との交流も図れたようで、特に一年生は先輩に顔を覚えてもらえて、顔見せの意味でも役立てていただけたのではと思います。

反省点としては、もう少し早めに準備をしていたらというのがありました。中国・四国合同ワンデリングを企画することになり、県合をどうするか決めかねていたとはいえ、下準備くらいしておくべきだったと後々になって反省しています。来年県合の実行委員長をする上村君には、早め早めの準備をお勧めしたいと思います。

さて、今回の県合はそれぞれの大学の人数の関係上、山大本学、山工工学部、県立大の3校が主管校として企画しました。実行委員長の僕をいろいろな面で手助けしてくれた本学、工学部、県大の実行委員の皆さんに、そして様々な助言を下された先輩方、この場を借りて深くお礼申し上げます。本当に有難うございました。

2.5 夏合宿コース紹介

PL 井手口謙三(3年)

この度、2004年夏合宿のPLを務めさせていただきます、井手口謙三と申します。

今回の夏合宿は人数的には6人・6人で2 Party 作るべきなのですが、上級生が1年生に対してあまりにも少なく、リーダー資格者と伝令の関係から危険を避けるため、1 Party に絞って行くことになりました。厳密に言うと、1 Party のなかに2つ Party を組み、自分が責任者兼 PL で、もう1つの Party の PL を副将の生田にやってもらうという形になります。

12人という大人数で、Party を組むという危険性も熟考したうえでの判断です。安全対策だけは決して妥協することなく、常に最善の策を取り、誰一人として怪我することなく帰ってきたいと思います。

さて今年の夏合宿のコースですが、北アルプスの裏銀座から表銀座までを縦走するというコースです。高瀬ダムから登りはじめ、烏帽子岳、鷲羽岳から双六岳を通り槍ヶ岳へ。そして大天井岳に登って最後に燕岳をピストンし、中房温泉に下山します。全6泊7日のコースです。多少の強度はありますが北アルプスの名峰を十分に満喫できるコースであると思います。

一昨年、自分が1年の時は台風のため槍ヶ岳登頂はなりませんでした。今年こそは登覇し、P-men が大いに楽しめる合宿に出来るよう、最後まで気を抜かず頑張っていくつもりであります。

2.6 アフターコース紹介

PL 上岡敬巧(2年)

今年アフターの責任者をさせていただくことになりました上岡です。今年は中央アルプスの北部の木曾駒ヶ岳と宝剣岳を目指していく予定です。アプローチ1日と山中2泊3日を予定しています。

コースは西側の木曾福島から木曾駒ヶ岳頂上まで一気に上ります。この山は一面展望があり、穏やかな山様をしています。そして頂上下のところにテントを張ります。そして次の日木曾駒ヶ岳で御来光を見て、宝剣岳を目指します。

ここは鎖場の続くドキドキしたコースです。そして頂上も岩のごつごつした荒々しい山です。この日はまた同じ所にテントを張ります、最終日は東側を下りていきます。この山にはロープウェイも通っているので、頂上で会った人数ほど、上りのコースや下りのコースでは人に会うこともなく静かな登山となるでしょう。また稜線場にあるところどころのお花畑に和まされるでしょう。中央アルプスの自然を思う存分満喫したいと思っています。

2.7 1年生合宿(山域~美ヶ原)

PL 松中季紅(1年)

今年の1年生合宿は、例年通り美ヶ原高原に行ってきます。9月2日から6日までで、アプローチ1日、山行1泊2日、予備日は2日の予定です。

アプローチは、松本からバスに乗り三城のバス停で降り、そこから広小場に向かいます。アプローチ、1日目もここにテントを張ります。

1日目は広小場から三城荘へゆるやかな坂を下り、そこから王ヶ頭を目指します。林道の中を歩き、少し急な坂を登りきると到着です。王ヶ頭にはテレビ局等の電波塔が立っています。ここから、北アルプス、八ヶ岳が一望することができます。次に目指すは王ヶ鼻。ほぼ平らな道を歩いていきます。王ヶ鼻は足場が崩れやすい岩場となっており、そこから松本市街、北アルプスなどが望めます。ここから再び王ヶ頭へ戻り、塩くれ場へ向かいます。やや急な下り坂を歩いた後、牧草地のゆったりした広い道を通っていきます。塩くれ場では放牧された牛が見られます。ここから百曲りの登山道を下っていきます。規則正しく続くジグザグの道を下り、それが終わるとやっと広小場です。ここで1日目は終了です。

2日目は、1日目に下った百曲りの登山道を塩くれ場向け登ります。塩くれ場を通り、次に向かうは美しの塔。ここは晴れた日にはアルプスを背景に記念撮影の絶好の場所となります。ここから山本小屋へ向かい、牛伏山を目指して登っていきます。登山道は歩きやすく、途中美ヶ原を一望することができます。牛伏山からの景色もすばらしく、

八ヶ岳、南、中央、北アルプス連峰を見ることができます。山本小屋～美しの塔～塩くれ場へと戻り、牧場の柵の中に入っていく次に茶臼山へ向かいます。ゆるやかな草原を歩いていくと到着です。ここからも北、中央、南アルプス、八ヶ岳などを望むことができます。後は広小場へと下っていき、三城からバスで松本へ。これで、1年生合宿の終了です。

今年の1年は、オッチェン5名、メツチェン2名の計7名です。1年だけでの初めての登山で不安もありますが、みんなで協力して乗り切りたいと思います。

2.8 2004年 第41回 中国・四国合同ワンデリング

実行委員長 井手口謙三（3年）

こんにちは。今回、2004年第41回中国・四国合同ワンデリングにおきまして、実行委員長を務めさせていただき井手口謙三と申します。

今年度の中国・四国合同ワンデリングは山口地区主管でやることになりました。主管校は山大本学と工学部、そして山口県立大学の3校で行います。キャンプ地は秋吉台の家族旅行村で、テーマは「カルスト大地に誓った絆」です。期日は10月の9・10・11日、「体育の日」を含めた3連休を予定しています。

1日目は各大学の集合と運動会、2日目には秋吉台の自然を楽しんでもらい、夜はファイアーと各大学のスタンプ、そしてお酒により、さらに友好を深めてもらいます。3日目はメッセージ交換と記念品贈呈、写真撮影等をしてから解散という日程になっております。

あまり接する機会のない中国・四国の各大学のワンゲラー達が、秋吉台の地で、カルスト台地のような広大で美しく、揺るぎのない絆をつくってくれることを願って一所懸命に尽力したいと思います。

第3章

現役部員近況報告 - 工学部編 -

3.1 執行部近況報告

第42期執行部主将 河田優

去年は現役部員が1人だったということで活動にいろいろと支障があり、OBの先輩方や本部のお世話になっていました。しかし、今年の4月から2年生3人が工学部の仲間入りをし、今は現役4人で活動を行っています。やはり現役部員が3人も増えると、工学部BOXに活気が戻ってきたように思います。

今年度の執行部役員・係は以下のようになっています。

主将・渉外・会計・トレーナー	河田 優（機械工3年）
気象・エッセン	上村 紘樹（応用化学工2年）
装備・サブトレーナー	園田 純平（知能情報工2年）
衛生・記録図書	岩佐 尚美（機能材料工2年）

最近の活動は、週3回のトレーニングと毎週土・日にリーダー養成を行っています。今年は4・5月に本部での行事が多かったことと3年の人数不足により、リーダー養成が順調に進まずとても苦戦しています。またその他の活動としては、今2生の1人がFWを計画しているようなのでそれに期待したいと思います。

これからはパーティー動に入りますます忙しくなってきますが、ワングル最大の目的である夏合宿を存分に楽しむため、それに向けての体力・精神力・団結力の向上を目指し頑張っていこうと思います。

春合宿結果報告

昨年度は工学部の現役部員不足のため、春合宿も去年の夏合宿と同じく本部と合同で行いました。そのため、工学部としての春合宿は行っていません。合宿での詳しい結果については本部の春合宿結果報告をお読みください。

3.2 夏合宿コース紹介

PL 河田優

工学部の夏合宿の PL を務めさせていただくこととなりました、河田と申します。

今年は北アルプスで、槍ヶ岳を目指して裏銀座コースからアプローチしていきます。日程は6泊7日です。一昨年の夏合宿でエスケープにより登ることの出来なかった槍ヶ岳に、今年こそは登ってやるという意気込みでこの山域を選びました。

コースですが、まずアプローチで高瀬ダムまで行きます。そこから烏帽子小屋まで急坂を登り、烏帽子岳・南沢岳をピストンします。あとは槍沢の下りまで裏銀座の稜線歩きを楽しみます。通過する主稜線には野口五郎岳、鷲羽岳、三俣蓮華岳、双六岳があり、途中、三俣山荘から黒部五郎岳までのピストンをいれています。最後に槍ヶ岳のピークから今まで通ってきた裏銀座コースを眺めてこの合宿を振り返ってみたいものです。

今年は去年と一転して、工学部としては比較的メンバーが多い4人となっています。この4人で力を併せて頑張り、良い思い出を作っていこうと思います。

3.3 80km 耐久徒歩

責任者 園田順平

今回で37回目となる80km 耐久徒歩ですが、今年は山口地区が中四合 W 主幹校となっている関係で2年の園田が責任者を勤めさせていただきます。

期日は現在のところ10月30,31日を予定していますが、中四との兼ね合いで遅れる可能性もあります。詳しい日程は後日 HP など何らかの方法でお伝えさせていただこうと考えています。

また、最近の八耐は安全対策上どうしても役員の数が増えてしまい宇部地区だけではまかなえず、本学や OB の方にもご協力をお願いしています。そこで役員のスリム化を考え、「80km を歩く」ということに重きを置き、後半のマイペースをカットすることを考えています。もちろんこの案にも時間の延長など新たな問題が生じることが考えられます。

これは案なので今年の八耐がどのような形になるのかはまだ分かりません。例年の形になる可能性の方がまだ大きいかなと思います。ただどのような形であれ、参加して「良かった」と思える八耐にしていきたいです。

参加の申し込みは10月10日頃までに山口大学工学部主将・河田か八耐責任者・園田までご連絡ください。

第37回 80km 耐久徒歩責任者：園田純平 mail : e033ff@yamaguchi-u.ac.jp

第4章

その他

4.1 OB会の名称と図案の募集

OB会の名称と図案（ワッペン等に利用）を募集しています。多数の力作をお待ちしています。採用者には豪華商品を送りますので、奮ってご応募ください。応募は事務局、または会長、副会長宛にお願いいたします。

4.2 編集後記

編集 植本洋

現在この後期を書いているのは、7月4日の夜です。今、ほぼ完成という段階にいたっています。今回のOB通信は字を少し大きくして読みやすくし、文字自体も雰囲気を出すために変えていますけどどうだったでしょうか。逆に読みにくいのではないかとというのが心配です。もしそうであれば、お手数ですがメールなどで教えて頂ければ嬉しいかぎりです。次の通信に生かしたいと思います。

現役を引退してもう半年。通信の編集をしているとついつい現役の頃が懐かしく思えます。ですが、今年は山口が中国・四国合同ワンデリングの主管となり、4年ながら僕も参加することになりました。夜遅くまで話し合いをしたり、パンフレットを作ったりしています。後輩と共に物事をつくっていくのは楽しく、なにか3年に戻って部を運営していた頃のような感じです。これが本格的に現役の話し合いに参加するのも最後かと思えば、自然に力も入ります。

ワングルに直接たずさわれるのもあと半年です。この時間を大切にして、現役を少しでもサポートしていこうと思っています。

4.3 連絡先

OB 会についてなにかご意見、ご質問ありましたら、下記の連絡先にご連絡よろしくお願いたします。

OB 会会長
末国 弘司

OB 会副会長
木山 克彦

事務局
植本 洋

工学部代表
村田 隆行